

Joto 『鋼製束』仕様書

木造軸組工法及び枠組壁工法の住宅等に Joto『鋼製束』を使用し、
住宅金融公庫融資付住宅とする場合の仕様

発行:  城東テクノ株式会社

Joto『鋼製束』仕様書

1.適用範囲

- 1-1 この仕様書は、住宅金融公庫の融資を受ける住宅等に適用します。
- 1-2 木造軸組工法及び枠組壁工法の住宅等の主要構造部に該当しない範囲に適用します。

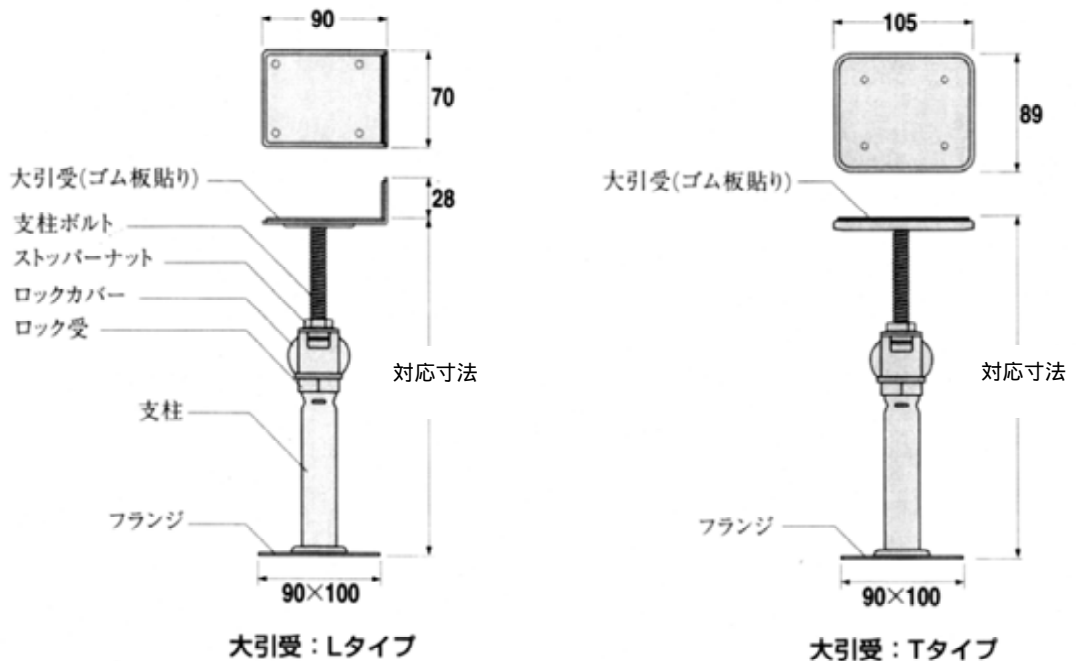
2.鋼製束(Lタイプ・Tタイプ)の条件

- 2-1 **使用材料:** 鋼材に電気亜鉛メッキを処理した上に、さらに黒色のクロメート処理を施したものと
し、大引受の天端には、ゴム板が貼り付けられたものとします。
- 2-2 **形状・寸法:** 鋼製束(Lタイプ・Tタイプ)の形状と寸法及び部分名称は、参考図1の通りとします。
- 2-3 **可動範囲及び圧縮荷重:** 可動範囲及び最大圧縮荷重は下表の通りです。

単位: mm

| 品名 品番 | 鋼製束(Lタイプ) | | | | | 鋼製束(Tタイプ) | | | | |
|----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | YM-1827L | YM-2438L | YM-3045L | YM-3753L | YM-4562L | YM-1827T | YM-2438T | YM-3045T | YM-3753T | YS-4761B |
| 対応寸法 | 192~267 | 247~382 | 312~447 | 377~532 | 462~617 | 192~267 | 247~382 | 312~447 | 377~532 | 462~617 |
| 最大圧縮荷重 | 36.38KN | 28.05KN | 22.85KN | 18.30KN | 14.98KN | 36.38KN | 28.05KN | 22.85KN | 18.30KN | 14.98KN |
| | (3712kgf) | (2862kgf) | (2332kgf) | (1867kgf) | (1523kgf) | (3712kgf) | (2862kgf) | (2332kgf) | (1867kgf) | (1523kgf) |
| | (高さ270mm時) | (高さ385mm時) | (高さ450mm時) | (高さ535mm時) | (高さ620mm時) | (高さ270mm時) | (高さ385mm時) | (高さ450mm時) | (高さ535mm時) | (高さ620mm時) |

参考図1 鋼製束の形状・寸法 (mm)

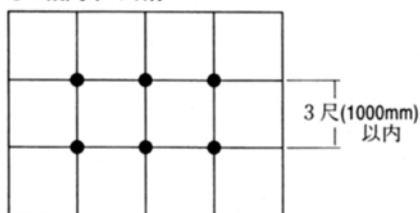


3.鋼製束の設置要領

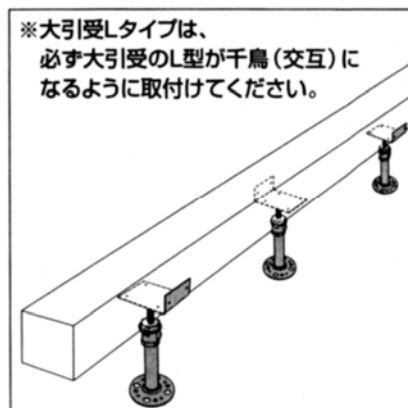
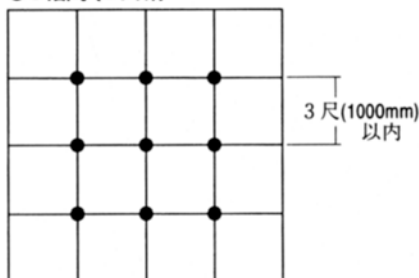
- 3-1 1 階の床組(大引)の支持部材として用いる、鋼製束の取付け位置は前後左右、おおむね間隔 3 尺(1,000mm)以内とし、L タイプは大引受の L 型が千鳥(交互)になるように、T タイプは大引受を大引の幅に合わせて大引のセンターに取付けます。(参考図 2)
- 3-2 鋼製束の上端(大引受)は、大引を反転させ、釘(l=65mm 程度)又はビス(4×L40 程度)4 本で大引に固定します。
- 3-3 鋼製束の下端(フランジ部)は、大引を所定の位置にセット後、支柱を引き下げ、別売品の接着剤(つかボンド又はコンクリートボンド)で、土間コンクリート床又は、束石に固定します。

参考図2 鋼製束の取付け位置

●6帖間(6ヶ所)



●8帖間(9ヶ所)



4.取扱いと注意事項

- 鋼製束の取付けは、大引を反転させ、支柱ボルトを伸ばさずロックの状態で大引に取付けて下さい。大引を所定の位置にセット後、ロックを解除し、支柱を引き下げて下さい。
支柱引き下げ後は、ロックの状態にして下さい。
- 使用する鋼製束は事後の調整代を考慮し、必要寸法プラス15mm程度の製品をお選びください。
- 取付け施工をスムーズに行うために、操作方法の確認を行って下さい。
- 鋼製束の下端を固定する別売品の接着剤を準備して下さい。
- 製品は金属製のため、取付け時にケガなどをしないようにご注意ください。
- 鋼製束に対して、不必要な打撃や分解・改造はおこなわないで下さい。
- 鋼製束は、主要構造部扱いとならない床組にご使用下さい。
- 鋼製束の取付け位置(土間コンクリート床又は、束石)の表面が水平で、溜水・異物のない事を確認して下さい。
- 束石の場合は、束石がしっかり据え付けられている事が必要です。
- 防湿モルタル(60mm 以下)の場合には、必ず束石をセットした状態で使用して下さい。
- 鋼製束は、必ず垂直に取付けて下さい。
- 鋼製束の下端を釘止めする場合は、使用する高さに伸ばし、ロックの状態で行って下さい。
ロック前に釘止めすると、ロック出来ない場合があります。
- 建物完成後、鋼製束の最終調整を行って下さい。

